

平成18年度事業、管理・運営に関する報告

(期間：平成18年4月1日～平成19年3月31日)

吉野作造記念館指定管理者

特定非営利活動法人 古川学人

平成18年度、大崎市がスタートした年に吉野作造記念館の指定管理者として、NPO法人古川学人は新たなスタートをきりました。今年度は、理事と職員が連携して下記の通り活動いたしました。

〔事業について〕

顕彰型の事業(7項目)、発信型の事業(7項目)、記念館活用型の事業(3項目)を展開しました。

一. 顕彰型の事業

企画展事業、吉野作造研究論文公募事業、館長講座事業、資料収集事業、資料の永久保存化事業(音声・映像の永久保存)、資料登録・検索掲載事業、常設展示内容見直し事業(市と連携)の7項目

1. 企画展事業

・3月18日に展示開始し、5月3日に終了 目標500名→来館者510名

内容：「吉野作造と日本国憲法—施行から60年—」

2. 吉野作造研究論文公募事業

・吉野作造の思想ならびに業績に関する論文公募の準備活動を行なうために、3月17日に祇園寺則夫氏・太田雅夫氏を招いて理事長・館長・副理事長が打合せを行いました。

3. 館長講座事業

・講師 田中館長

テーマ『日本国憲法公布60年・民本主義を唱えて90年・中央公論120年』

参加者 延べ136名参加

(8月26日：32名 9月9日：21名 9月30日：24名 10月7日：18名

10月14日：21名 10月28日：20名)

・講師 後藤一蔵氏(外部講師)

テーマ

『大正期における青年組織の諸相—大正デモクラシーとのかかわりにふれながら』

12月9日 参加者25名

・講師 高橋よし子氏だったが、講師の都合により変更し田中館長が実施

テーマ『昭和初期の農民運動』 12月16日 参加者33名

4. 資料収集事業→書籍・雑誌24冊、自筆2資料、合計26資料・金額133,005円

5. 資料の永久保存化事業(音声・映像資料永久保存)→自前の作業と外注で一部実施

6. 資料登録・検索掲載事業→2130件済み(4379件中)

7. 常設展示内容見直し事業（市と連携）

担当の佐々木理事長・佐々木副理事長・田中館長にて検討の結果、問題点を列挙して可能なことから進めることとする。

・問題点列挙項目

- ①説明文の字が小さい。見やすくするため字を大きくする。
- ②キリスト教のコーナーで重要なところがかけている。
- ③吉野博士の兄弟・姉妹 12 人と 7 人の子供たちについて詳しく説明をつける。
- ④掛け軸の読み下し文と説明をつける。誤字も直す。
- ⑤予算が付けば、現在の資料を時系列に直し見やすくする。
- ⑥ブック型ビデオ上映中でも展示見学が可能な方法を検討する。

二. 発信型の事業

記念館だより発刊事業、広報事業、中学生招館事業、読売・吉野作造賞受賞者講演会事業、読売・吉野作造賞受賞者の著書・受賞経過資料の展示事業、吉野ネットワーク交流会事業、記念館友の会事業の 7 項目

1. 記念館だより発刊事業

4月1日大崎市全戸（約 45,000 戸）に配布。

2. 広報事業

- 1) 「ゴールデンウィーク企画事業」実施 参加者 785 名
- 2) 「記念館で夏休み企画事業」実施 参加者 175 名

3. 中学生招館事業

- ・9月6日 大崎市教育委員会伊東敬一郎教育長訪問(佐藤専務理事・千葉理事・久光事務長) 中学生招館事業への共催を依頼し、9月21日付にて共催承諾の通知を頂く。
- ・10月2日 第一小学校で開催された「大崎市内小・中学校の校長会」にて、招館事業趣意を資料として配布しPR
- ・11月17日 古川東中学校千葉校長と面談 生徒会の役員を代表し見学する方向にて検討することに決定
- ・2月23日古川東中学校が引率の先生2名と生徒18名が中学生招館事業のジュニア吉野スクールで来館しました。中鉢職員が各生徒に吉野博士について説明を行い終了後、ビデオ鑑賞・展示資料を見学して、見学後に感想等を書いて頂き1時間20分ほどで終了しました。

4. 読売・吉野作造賞受賞者講演会事業

- ・吉野賞贈賞式（7月13日）にて長谷川毅氏に講演依頼 内諾を得たものの、長谷川氏はカルフォルニア在住のため、再来日の予定が不明により、贈賞会で長谷川氏担当の中央公論新社宇和我氏を介して、何度か来日予定を打診して頂く。
- ・翌年1月5日に長谷川氏からメールあり、「司馬遼太郎賞を受賞した為、2月12日の受賞式に来日するので日程調整のうえ記念館で講演したい」との打診。
- ・日程調整をした結果、2月14日開催となる。 講演の演題は『太平洋戦争における日本降伏と国体の定義』に決まり、当日73名の聴講者の前で講演をして頂きました。

5. 読売・吉野作造賞受賞者の著書・受賞経過資料の展示事業

NPO法人古川学人が吉野作造記念館を受託した平成14年から吉野作造賞受者の著書を来館者に読んでもらう為、ライブラリーとして研究室に受賞者の略歴・受賞著書等を陳列。
更には、講演のビデオをDVDにして視聴に供するよう年度内に整備した。

6. 吉野ネットワーク交流会事業

1) 平成19年1月27日。第三回読売・吉野作造賞受賞者である猪木武徳氏をお招きして特別講演会を開催。

講演の演題は「戦後日本のデモクラシー」ーその試練と課題ー、当日88名の聴講者の前で講演をして頂きました。

2) 講演会の翌日、猪木先生をアドバイザーとして、ネットワーク事業の今後のあり方について担当理事と職員とともに意見交換を実施。

7. 記念館友の会事業

各施設の友の会等資料を参考にし、検討中。

三. 記念館活用型の事業

ラウンジ活用事業、オピニオンホール事業、読売・吉野作造賞表彰式招致事業の3項目

1. ラウンジ活用事業

継続検討中

2. オピニオンホール事業

3回会議をして検討中。子ども向けの冊子をパート職員と作成中。

3. 読売・吉野作造賞表彰式招致事業

現在未着手

四. 新規事業

3月4日に吉野作造記念館名誉館長井上ひさし氏による講演会を大崎市教育委員会、吉野先生を記念する会と共催で実施

演題は「井上ひさしの吉野講座⑩」当日176名の聴講者の前で講演をして頂いた。

◎事業の企画・実行は、理事と職員による担当制を取りながら推進した。

[運営・管理について]

一. 情報ネットワークの強化

1. 読売・吉野作造賞受賞者とのネットワークづくり

- ・読売・吉野作造賞贈賞式（7月13日）出席を活用
佐藤専務理事・石ヶ森財務理事・久光事務長が出席し、過去の受賞者の猪木武徳氏、阿川尚之氏と面談し、受賞者ネットワークづくりへの協力を依頼。
- ・猪木武徳氏に三浦朱門氏並びに宮崎勇審査委員長を紹介して頂き記念館のPRをした。
- ・阿川尚之氏に中央公論新社の書籍第一部長中田氏を紹介頂き、長谷川毅氏に受賞者講演会の趣旨をご説明し講演を依頼し内諾を得た。
- ・読売新聞グループ本社会長渡邊恒雄氏、読売新聞社社長滝鼻卓雄氏ならびに、中央公論新社社長早川準一氏と挨拶をして、記念館のPRと一度来館して頂けるよう依頼した。
- ・1月27日開催した猪木武徳氏の特別講演会の際、早川社長に案内を送りましたが日程の都合上実現しなかったが、次の機会にはとの連絡を頂いた。
- ・猪木武徳氏を中心として、阿川尚之氏と数人の協力者をピックアップし、受賞者ネットワーク打ち合わせを、3月1日京都にて猪木武徳氏、御厨貴氏と佐藤専務理事、石ヶ森財務理事で開催した。

2. 大崎市の各中学、高校とのネットワークづくり

古川高等学校の生徒が3月2・9・15日に1年生229名来館しました。（毎年来館している）
田中館長が吉野博士について10分間で講話をし、ビデオを見てから常設展示室内の資料を見学するコースを設定し行った。

二. 情報発信基地として広報活動の強化

1. 吉野作造記念館のホームページの内容を充実させ、全国に情報発信

6月15日にホームページがリニューアルし、これまでより機能が充実して利用者にとって使いやすいホームページになり、一日のアクセス件数も以前より一日10件ほど多くなった。
新規ホームページ更新ソフト導入により、職員が使い方を勉強し今現在は当館独自で更新できる状況になり、利用者に対して敏速に情報提供できるようになった。

2. マスコミ関係者と積極的に情報交換を実施

- 1) 新聞社・放送機関に対して記者会見などにより、講演会、企画展示会、各イベント等々の情報を常に交換し広報活動強化した。
- 2) 年に1回懇談会を開き各社から今後の為に意見を頂く機会を年度内に予定したができなかった。

三. 組織機能をアップ

1. 民間組織の運営力を最大限にいかした活動

7月15日から10月1日まで吉野恆子さんからの寄贈された資料、孫文直筆「天下為公」や吉野作造直筆の表札、吉野作造の葬儀時の会葬状等を入れ15点を展示。有料にて常設展示室とともに見学に供した。

2. 役割分担による組織の活性化（各事業の担当者を理事がサポート）

顕彰型の事業（7項目）・発信型の事業（7項目）・記念館活用型の事業（3項目）の事業に対し、各理事と職員が担当を決め分担し責任を持って事業を推進した。

3. 特定非営利活動法人 古川学人の会員の拡大を行なう

17年度まで当法人の会員は16名だったが、18年度は2名が入会するとともに理事に就任し、事業実践に活躍した。会員18名、理事12名

四. 人材の育成

1. 職員の能力アップ

1) 各種研修の受け入れ

①7月27・28・30日の3日間、小・中学校教頭社会体験研修を受入。各職員がスケジュールを作成し指導を行い、能力アップにつながった。

②8月22日から27日まで大学生の博物館実習生の受入。高橋学芸員がスケジュールを作成し指導を行い、各職員も手助けしたことで能力アップにつながった。

2) 講習会へ参加

・7月29日に大崎市教育委員会主催の生涯スポーツ指導者研修会の「普通救急救命講習」に久光事務長と高橋職員が参加した。

『心肺蘇生法及び救護法・AED操作法』実技等の習得

・9月8日古川消防署による危険物火災消火訓練（新江合川運動緑地公園（野球グラウンド））に佐々木職員・高橋職員・本間職員の3名が参加。

・11月11日（水）シンポジウム「文化財の保存と修復Ⅱ－東北の文化財－」（高橋かおる）

・11月17日NPO法人「杜の伝言板ゆるる」主催の講習会に（登記書類等の作成について）佐々木職員参加。

・市民活動リーダー養成講座（11月26日、12月3日・10日）が大崎市市民活動サポートセンターで行なわれ受講した。

久光事務長→①市民活動関連法の概要、②市民活動団体の設立、③活動団体の労務管理
⑤活動団体の運営管理、⑥活動団体の事務局業務

佐々木職員→④団体の税務・会計管理

3) 顕彰に関する館長の活動に職員を同行させて資質向上を図った

・3月29日（水）寄贈史料受取り 吉野恆子氏宅 （担当：高橋かおる）

・6月7日（水）平成18年度宮城県博物館等連絡協議会 （担当：高橋かおる）

・10月14日（木）宮城学院120周年大学企画映画「ペアテの贈り物」上映の参加
（担当：中鉢真子）

・5月25日（木）仙台YWCA短期講座「吉野作造」を聴講（担当：中鉢真子）

・9月24日（水）リレー講座『旧制二高ゆかりのまち』（担当：高橋かおる）

・11月24日（水）企画展の内容について仙台博物館の佐藤憲一館長よりご意見を頂く
（担当：高橋かおる）

・1月24日（水）企画展準備のため（金成町歴史民俗資料館）

（担当：高橋かおる、中鉢真子）

2. 職員企画会議の実施及びボランティア指導

- 1) 職員で、事業や運営上の事項について企画会議を実施した。
- 2) 各イベント等の実施にあたり各職員が積極的に意見を出し合いながら企画を出し合った。
- 3) 各職員のボランティアの生徒に指導を行ったことにより、職員の能力アップにつながった。
(誠真短大、古川黎明高校4人・石巻好文館高校3人・佐沼高校1人・東北学院1人)

五. 記念館管理

1. 設備のメンテナンス

- 1) 自動ドア (寺岡ファシリテーズ)
4月24日、8月1日、11月30日と3回の点検実施し年契約分完了
- 2) 受水槽 (太平エンジニアリング)
12月11日に点検実施し年契約分完了
- 3) 常設展示室 (乃村工芸社)
12月4日ブック型ビデオと機械装置の点検実施し年契約分完了
- 4) 消防設備 (同和警備)
6月12日・12月11日と点検実施し年契約分完了
- 5) 館内警備 (同和警備)
開館日は午後5時30分から翌朝7時30分
休館日は前日午後5時30分から開館日の午前7時30分まで
- 6) 館内電気関係 (東北電気保安協会)
毎月1回点検を実施 12回完了
- 7) 館内空調関係 (幡設備工業)
年1回点検を3月に完了

2. 施設の管理

- 1) 周辺環境整備 (シルバー人材)
 - ①除草作業 6月13日、9月13日2回作業を実施
 - ②除雪作業 1月2回、2月4回、3月1回積雪により実施
- 2) 館内清掃 (リフレッシュかむろ)
4月24日、11月30日の2回清掃実施
- 3) 日常整備・清掃
 - ①パート職員により毎日の作業を実施
 - ②身障者職員を雇用して、日常作業を実施
- 4) 修繕等
 - ①屋上に上がる北側の門扉破損により修理実施
 - ②空調外機の風戸の設置実施
 - ③屋上に危険箇所の表示実施
 - ④休憩ラウンジガラス破損被害により修理実施
 - ⑤資料展示の廊下のガラスに劣化防止のため紫外線フィルム貼付実施
 - ⑥資料室側の機械室のスイッチ不良により修理実施

- ⑦記念館正面門に門扉設置・・・・・・・・(市による)
- ⑧常設展示室の足元灯コンセント改修実施・・・・・・・・(市による)
- ⑨外周の庭園灯撤去実施・・・・・・・・(市による)

以上